

お宮あれこれ〜鳥居の話〜

時々、神社とお寺はどう違うんですか、と聞かれることがありますが、神社は神道、お寺は仏教の施設ですから、最も大きな違いは申し上げるまでもなく、宗教の違いです。ただし、神社とお寺の建物は建築の様式などを詳しく調べるとだいぶ違いがあるのですが、外見だけではどちらなのかわかりにくいこともあるかもしれません。そんなとき、鳥居があるかどうか、見分けるための手がかりになります。もちろん、鳥居があるのが神社です。神社を表わす地図記号が鳥居になっているのはその表われです（ただ、かつての神仏習合の名残で鳥居を備えたお寺もあるため、厳密には一つの目安です）。今回はこの鳥居について、少しお話ししたいと思います。

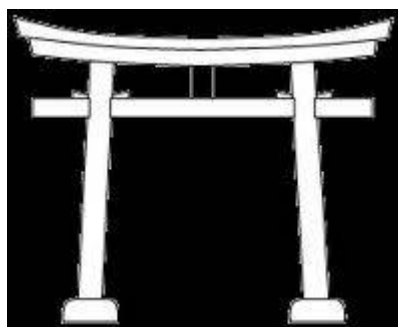
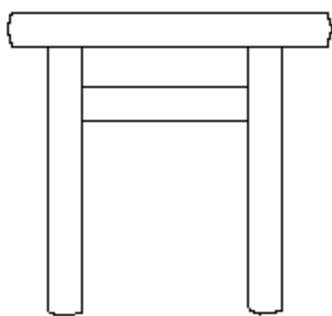
「鳥居」という言葉の語源については、以下の通りいくつかの説があります。まず、(1)「通り入る」が変化したものだという説。次に、(2)天の岩屋戸神話で、岩戸のうちに隠れてしまった天照大神にお出ましいただこうと、八百万の神々が鳥を木にとまらせて鳴かせたという話が登場します。この鳥のとまり木が起源だという説もあります。また、(3)外国から渡来したものだという説もあるそうです。どれが正しいのかははっきりしていません。

次に、鳥居の役割について考えてみます。新しく建物を建てる前には、工事の安全を祈願するために地鎮祭を行います。このとき、祭壇の周りには四本の竹を立て、注連縄を張り巡らします。この竹と注連縄は何のためのものなのでしょう。これは、お祭りに当た

って、神様に来ていただく場所、神聖な場所であることを示すためのものです。つまり、いわゆる「結界」なのです。

神社の敷地は、もともと神様のいらっしゃるご神域ですから、神聖で特別な場所だということを示す結界が必要です。神社では、たとえば敷地の周囲を囲む玉垣がそのような役目を果たしています。そして、鳥居は神域に入るための門の役割を持ちます。そのため、神社にお参りするときに、鳥居をくぐる際には軽く一礼するのが作法だとされています。

今度は、鳥居の形を見てみましょう。鳥居の形には様々なものがありますが、代表的なのは神明鳥居と明神鳥居です。図をご覧ください。



上が神明鳥居、下が明神鳥居です。

神明鳥居は上部の横柱（「笠木」かさぎと呼びます）がまっすぐですが、明神鳥居では端が上に反っているのが特徴です。当神社の鳥居は神

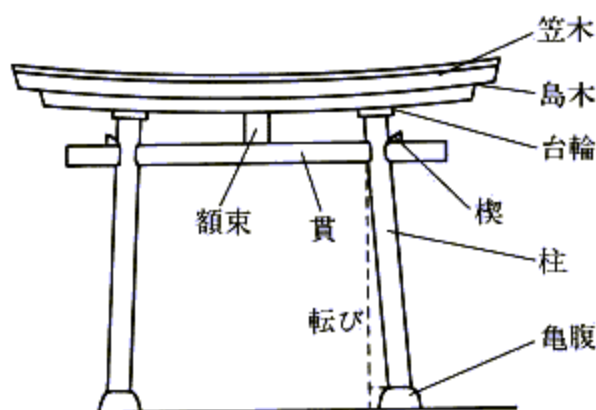
明鳥居です。

鳥居の各部分には、「笠木」をはじめ、独特の名称があります。たとえば、笠木の下に、平行に渡した柱は「貫」と言います。また、柱の根元を固定するため、半球型の形に盛った形を作る場合があります。この部分は「亀腹」あります。

いは「饅頭」と呼ばれます。形からついた名前でしょう。また、柱につけられた傾斜を「転び」と言います。ことばの一つひとつが、鳥居に長い歴史があることを物語っているように感じます。なお、石を投げて「貫」の上にと願いが叶う、などと言われることがあるようですが、俗信です。危険なのでおやめくださいませ。

神社によっては複数の鳥居が立てられていることがあります。参道の入り口にあるものを「一の鳥居」、以下、社殿に近づくにつれ、「二の鳥居、三の鳥居」のように呼びます。

鳥居といえば、お稲荷さんの赤い鳥居を思い出すかたもいらっしゃるでしょう。なぜお稲荷さんの鳥居は赤いのでしょうか。赤は太



陽や炎の色であり、強いエネルギーを持った色と考えられていたようです。古代中国で霊獣とされていた四神のうちの一つ「朱雀」は赤い色をした鳥です。奈良時代の平城京、平安時代の平安京の南向きの正門「朱雀門」に名前が見られる通り、朱雀は南の方角を守る霊獣と考えられていました。お稲荷さんの鳥居も、朱雀の持つ強力な力にあやかろうという気持ちから赤く塗られたのではないのでしょうか。同時に、先にご紹介した通り、鳥居も結界の一部ですから、霊獣のもつ不思議な力でお宮を守ってほしいという意識が働いたとも考えられます。

神社にお参りをなさる折、鳥居に注目してみると、いろいろな発見があるかもしれません。

(写真は、鳥居の間から差し込む朝日、本年四月撮影)



祭礼・祈禱のご案内

○次回甲子祭

十二月二十九日（土） 祈禱受付時間 午前五時～十二時

○開運千人講祈禱祭 毎月一日（午前六時～正午まで）

○お祓いのお申し込み・お問い合わせなどは以下の電話番号にお願いいたします。

不在の場合は、恐れ入りますが、留守番電話のメッセージのあとで、お名前・お電話番号・ご用件をお話してください。のちほどこちらからご連絡いたします。

○諸祈禱受付 商売繁盛祈願、心願成就祈願、厄除け、お宮参りなど、随時祈禱を行っております。祈禱日時については、お電話にてご相談ください。

〈お問い合わせ・お申し込み〉

○三三二九一八七九三〇

お急ぎの場合は携帯電話へどうぞ ↓ 〇八〇一九八七七八七二六

eメール dai kokujinja@gmail.com

ウェブサイトのご案内

当社のウェブサイト（ホームページ）を公開しております。神社からのお知らせ・神社の由緒のほか、「だいきく通信」の内容も一部抜粋して掲載しております。さまざまなお知らせに活用したいと存じます。機会がありましたら、ぜひご覧下さいませ。

<http://www.dai kokujinja.org>

次号発行予定

「だいきく通信」第十一号、いかがでしたか。次号「冬の号」は、十二月二十九日の甲子祭に発行予定です。

「だいきく通信」第十一号 平成二十四年十月三十日発行

編集・発行 大國神社社務所

〒一七〇〇〇〇〇三 東京都豊島区駒込三二二一十一